

T.T 様

読んだ本の書名：「あなただけのちいさないえ」

(ベアトリス・シェンク・ド・レーニエ 作 アイリーン・ハース 絵

ほしかわ なつよ 訳 童話館 2001)



これまで、物語としての絵本という形でしか、ほとんど絵本を読んできていなかったの  
で、「住まいの絵本」という観点から絵本を読んでもみると、とても新鮮に感じました。

日本では、家のとらえ方が、みんなで仲よく暮らす空間として表現されており、欧米で  
は、特定のパートナーと暮らすところとして表現されている点や、家の壁の質感や造り、  
触感など、考えたこともなかったので、驚きでした。ただ物語を楽しむだけではなく、住  
環境など、違った角度から読んでみるのもおもしろいと思いました。

自分の興味を絵本を通して試してみる、ということで、読んだ本は「あなただけのちいさ  
ないえ」です。実際、私が小学校低学年から 10 才くらい（何才の時だったのか、はっき  
りとは覚えていませんが）の時に、家の裏で、自分だけが入れる家を作ったことがあり、  
その中で、これもまたダンボール箱で作った机で、学校の宿題をした記憶が呼び起こされ  
ました。また、稲刈りの終わった田んぼで、積み上げられたわらをベッドのようにして、  
そこで本を読んでいた記憶もあります。

二つの記憶は、友達と楽しく遊んだ事と同じくらい大切な記憶で、また、親や大人、友  
達がまわりにおらず、自分だけの空間でした。この絵本のように、だれにも邪魔されずに、  
貴重な時間を過ごしていたのだとわかりました。

社会という外の世界で、他人と関わることも重要ですが、新聞を読んでいる時や、ソフ  
ァでうたた寝をしている時など、「個の空間」を持つことが、子どもの時だけでなく、大人  
になった時にも必要であることが、この絵本を通して確認でき、少し安心しました。